

登呂遺跡の整備と活用

— 史跡の再整備でめざしたこととその達成状況の確認 —

岡村 渉（静岡市観光交流文化局次長）

1. 登呂遺跡の発見から発掘調査、そして整備（旧整備）

登呂遺跡は、昭和 18（1943）年軍需工場建設に伴い発見され、戦時中だったが許された範囲で、静岡県を中心に発掘調査が実施された。戦後の昭和 22（1947）年になり、日本で最初の学際的な組織での発掘調査が 4 年間実施された。調査の結果、弥生時代の短期に存在した住居 12 軒、倉庫 2 棟、広い水田とそこで使われた様々な生活用具（土器・石器・木製品等）が、安倍川の洪水土に埋まったままの状態で見つめられた。この調査は、戦前の神話的歴史観から戦後の科学的調査による実証的歴史観への大きな変化を实践するものでもあった。

発掘調査の成果を分かりやすく示すための整備として、遺構に粘土を貼り保護した上での露出展示や建物復元、遺構の擬木復元などを行い、全体を史跡公園として整備していった。また、公園の一角に遺跡の解説と出土品の展示を行う静岡考古館（登呂博物館の前身）を昭和 30（1955）年に建設した。

2. 再発掘調査と再整備

(1) 再発掘調査と再整備のきっかけ

学際的な発掘調査や建物復元から約 50 年が経過し、様々な問題点が指摘され、その対策として再整備の必要があり、再整備の基礎データを得るために再発掘調査を実施した。

問題点	内容や対応方針	解決策
登呂遺跡の姿（復元）の正確さ	登呂遺跡だけが特別？	発掘調査（再検討と新たな探査）
来訪者の減少	魅力の減少、新たな魅力の付加	史跡の再整備、体験学習の充実
施設の老朽化	施設の不都合・破損	史跡及び公園の再整備、施設更新
十分行き届いていない管理	管理者ごと管理方針が異なる	管理の一本化、一体化
登呂遺跡の知名度の低下	教科書への掲載が減少	情報発信力向上、博物館の更新

(2) 再発掘調査の成果

平成 11～15（1999～2003）年の再発掘調査により、登呂遺跡は 1 時期（短期）のものではなく、3 回の洪水を含め 5 段階以上に変遷した比較的長期に存続したことがわかった。そのうち最初の洪水土により埋没した集落の状況が最も良く残っていた。居住域と水田域を分ける区画溝が新たに見つかり、居住域には周溝を持つ住居跡、倉庫跡と共に新たに祭殿が発見された。水田域では盛土畦畔により大きく区画された中に手畔で小区画された水田が発見され、集落全体のリアルな集落景観が明らかになった。また、通常的生活用具と共に赤漆塗りの琴や青銅製の指輪など特別な遺物も出土した。

(3) 再整備の概要

再発掘調査の成果を基に再整備基本設計を策定し、事業開始前に指摘された問題点の解消に取り組んだ。再整備の大きな方向性として、①弥生時代の登呂遺跡集落を正確に復元し、タイムスリップできるようにすることと②都市公園機能を外周部に集約し、外部との遮蔽を図るということであった。

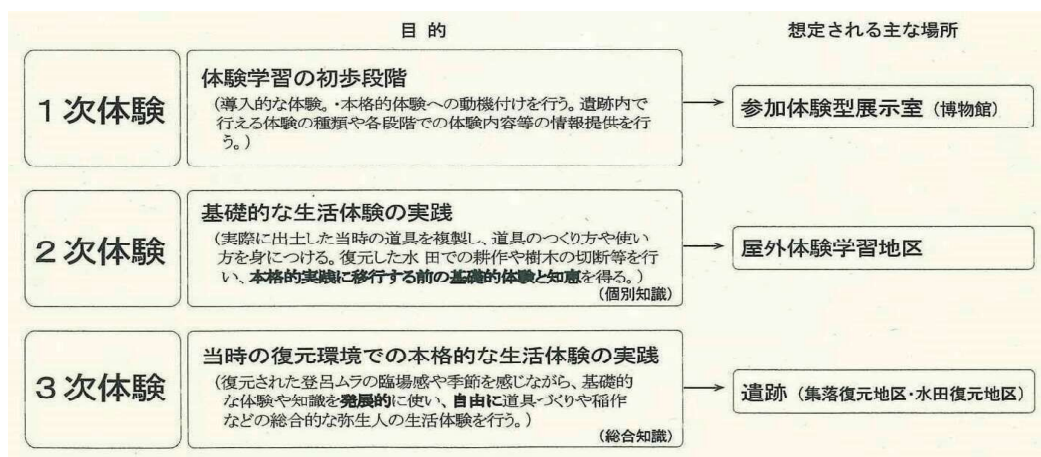
再整備工事は、平成 18～23（2006～2011）年に実施し、居住域では元の地形を復元し、洪水直前まで存在した住居 4 棟、倉庫 2 棟、祭殿を当時の配置で復元した。このうち、1 号復元住居は、建物内で各種活動ができるよう建築基準法に基づく「建築物」にするため、鉄骨造 GRC パネル貼り構造での建設というこれまで試みられた

ことのない工法を採用した。水田域は居住域から連続するように拡張し、元の地形に合わせて水田と水路を復元し、米作りができるようにした。また、道路により分断され、あまり利用していなかった東名高速道路高架下部分についても、水田遺構の復元と共に屋外体験学習地区に位置付け、体験学習サポート施設を設置した。

また、昭和 47（1972）年に開館した登呂博物館のリニューアルを実施し、展示及び体験学習についても再整備事業と連携した取組みができるようにした。さらに再整備後の史跡公園については、博物館の野外展示施設に位置づけ、博物館が一体的に保存と活用及び管理運営まで行うようにした。

3. 再整備でめざした活用の方向性

再整備では、「弥生時代の登呂ムラを復元し、そこで生活しているムラ人と来訪者が会話し、一緒に各種生活体験する」ことにより、登呂遺跡をより深く理解してもらう環境を整えるという目的があり、体験学習を重視する活用をめざした。体験学習では、下記のように 1 次体験から 3 次体験まで実施できるように施設や仕組みを用意した。その中には、体験メニュー（鹿角製釣針・機織り・鋤造り等）作りの試行的実施やムラ人雇用の制度を導入、体験の参考になる『登呂遺跡の生活復元図鑑』の作成などがある。再整備事業の中で「見る活用」から「体験する活用」に大きく舵を切った。



体験学習の段階と目的、実施場所

4. 現在行われている活用

博物館内、居住域及び水田域の遺構復元エリアで現在行われている体験は、後出写真のように定型かつ簡単なメニューで、1 次体験から 3 次体験の体験目的に沿って計画的に行われているわけではなく、“やれる”体験学習の実践のみに偏っている。喜ばれているからいいというものではない。

5. これから行うべき活用について

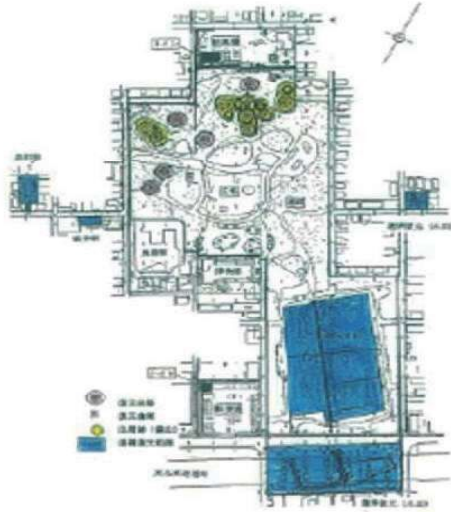
再整備事業では、ハード部分は完成したが、ソフト部分（体験学習のメニュー、実践等）は担当する人の意識・意欲で左右されるため、簡単には完成できない。現在において、再整備事業で計画した体験学習が十分実行できているとは言い難い。完成に近づけるためには、登呂博物館全体で、登呂遺跡を広く、深く知ってもらうための活用（体験学習に限定する必要はない）の目指す姿を明確にし、それに向かってやるべき施策を決定し、責任をもって実行していくしかない。例えば、水路の管理を徹底し、自然環境が復元されるだけでも、都市化してしまった生活環境とは異なる魅力ある空間となり、その中で生活体験ができ、その作業の背景や意義を知ることによって登呂遺跡と弥生時代の生活理解が深まるであろう。

また、今年度は登呂遺跡発見 80 周年ということで、周年記念事業を展開している。ただ 10 年経ったからやるのではなく、10 年前にやろうとしたことの振り返りと今後 10 年の目標を立ててほしい。10 年前に何を目標設定したかを確認し進捗を確認すると共に 10 年先の目指すべきビジョンを明らかにすることが大切である。

参考文献 静岡市教育委員会 (2005) 『特別史跡登呂遺跡再発掘調査報告書 (考古学調査編)』
 静岡市教育委員会 (2006) 『特別史跡登呂遺跡再発掘調査報告書 (自然科学分析・総括編)』
 静岡市教育委員会 (2011) 『ようこそ登呂ムラへー登呂遺跡の生活復元図鑑ー』
 静岡市教育委員会 (2012) 『特別史跡登呂遺跡再整備事業報告書』
 岡村 渉 (2014) 『弥生集落の原点を見直す・登呂遺跡』 新泉社
 岡村 渉 (2023) 「登呂遺跡の再整備」『静岡県考古学研究 54』 静岡県考古学会

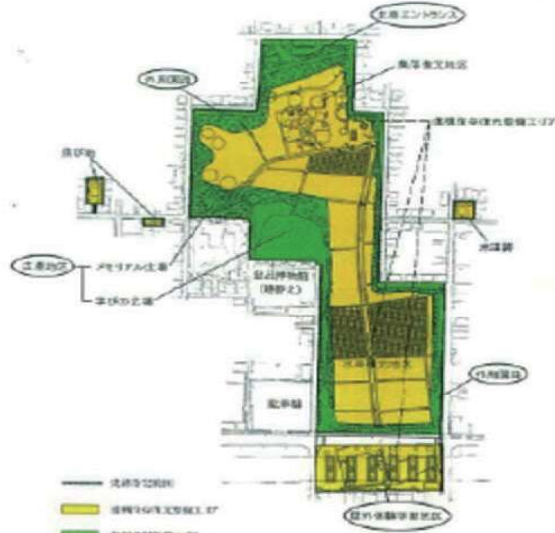
再整備前後の比較

再整備以前



地点ごとの遺構復元

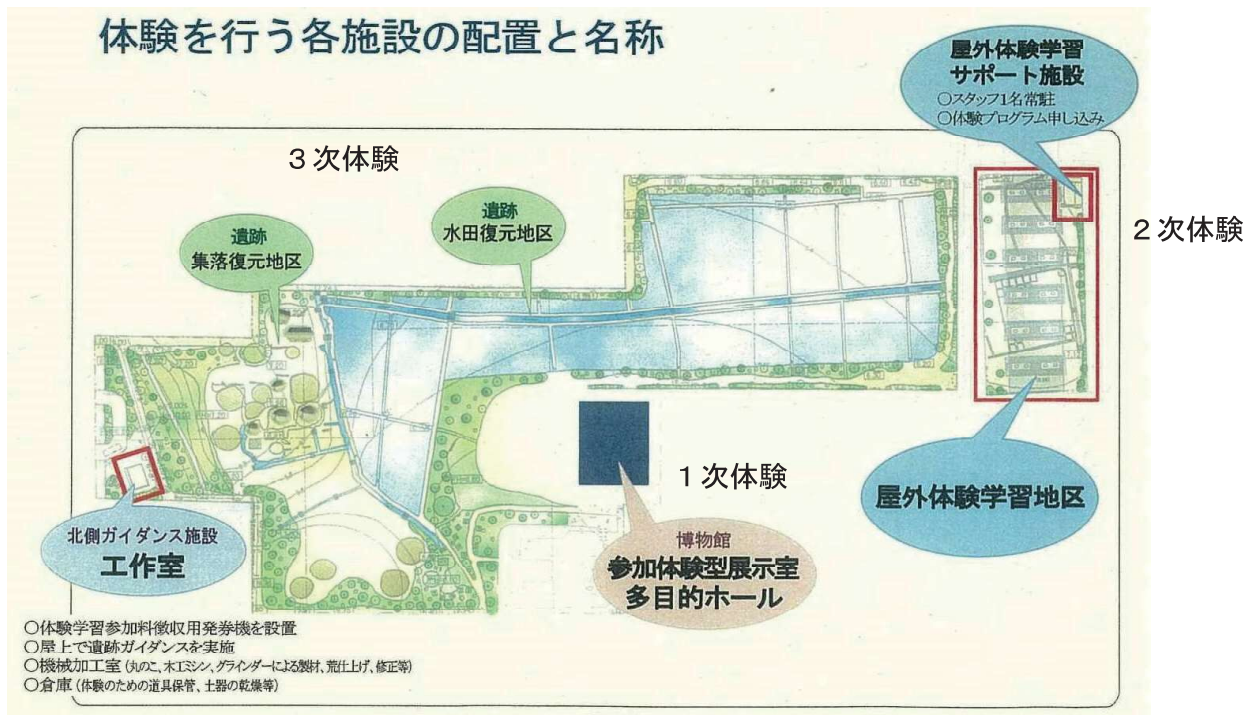
再整備後



全域での正確な遺構復元と生活体験

再整備前後の登呂遺跡公園の比較

体験を行う各施設の配置と名称



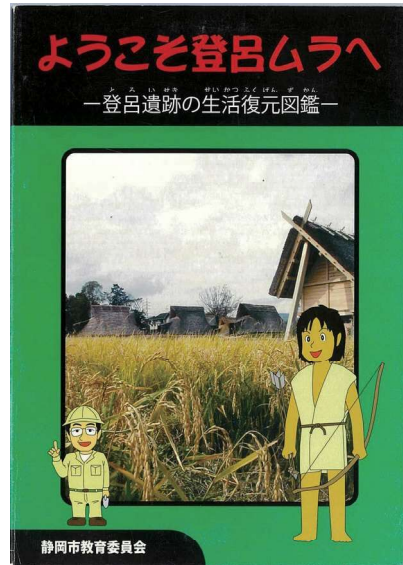
体験学習を行う施設の配置状況



復元住居内での土器炊飯（2010年）



居住域での生活体験状況（2010年）



『登呂遺跡の生活復元図鑑』（表紙）



登呂博物館弥生体験展示室内での体験学習状況



居住域での火起こし体験



居住域での石器づくり体験



復元水田での穂積み（収穫）体験